

# 現代教育研究所の設立について

所長 押谷 由夫

念願の現代教育研究所が平成 26 年 11 月 1 日に開所しました。創始者の人見圓吉・緑夫妻，2 代目理事長の人見楠郎をはじめとして，時代と正対しながら理想の教育を追い求めて発展してきたのが本学です。その礎の上にさらに新しい教育研究・実践の構築に貢献できればと願う次第です。



写真 1 坂東眞理子学長と江口雄輔理事による開所式での除幕

## 設立の目的

現代教育研究所の設立の目的は次のようになっています。

本学園の教育理念をもとに，大学院各研究科並びに大学学部各学科，附属昭和高等学校・昭和中学校，昭和小学校，昭和幼稚園が連携し，今日的教育課題に関する研究・実践を促進し，併せて内外にわたる教育研究・実践の発展に寄与することを目的とする。

このことを一言で表せば，本学の学園目標である「世の光となろう」を教育理念とした「世の光となる研究所」であるということが出来ます。つまり，校訓三則の「清き気品，篤き至誠，高き識見」を基にした教育研究・実践の追求です。そして，附属幼稚園から大学院まで本学園全体にかかわる研究所であることが明記されています。

また，具体的な研究・実践においては，特に今日的教育課題を積極的に取り上げ，内外にわたる研究機関と連携を図りながら進めていくことが示されています。現代教育研究所は，内部の教員が自らの所属する研究科や学部，学科，附属機関を問わず，研究交流を図る場であるとともに，外部の研究機関とも連携しながら，本学の特徴をアピールする絶好の場でもあります。

## 構成員

現代教育研究所は，所長，副所長，所員，特別招聘研究員，研究員，客員研究員，会員から構成されます。所員は，本学の教員より委嘱されます。特別招聘研究員は，優れた研究者を全国から招聘します。研究員は，研究所の行う研究を主体的に行おうとする研究者を全国から募集します。審査があり登録料が必要です。客員研究員は，本学の大学院修了者，本学の附属高等学校・中学校，小学校，幼稚園に勤める教員等です。申請が必要です。無料です。

さらに，会員は，全国から教育研究に興味のある人を募集するものです。特にネットを通して，情報交換や研究交流ができるようにしています。申請が必要です。無料です。本研究所の大きな特徴は，研究員や会員を全国から募集し，意欲的な研究者や教員を支援する研究交流の場にしようとしているところにあります。

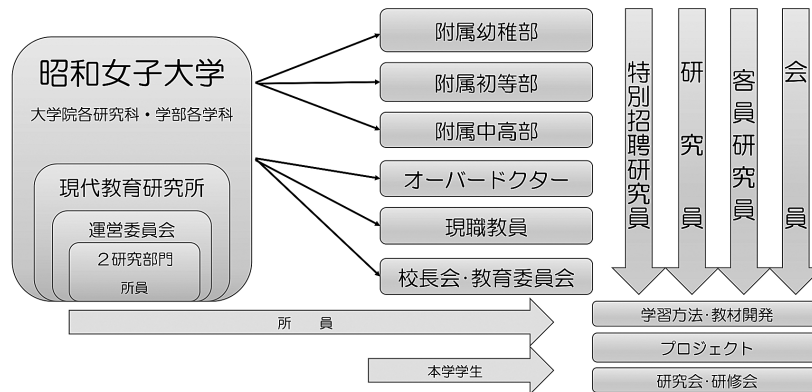


図1 所員、学内関係者と外部関係者との関係図

## 研究組織及び内容

研究組織は、大きく現代教育研究部門と建学理念研究部門があります。

現代教育研究部門は、現在のところ、理科教育研究グループ、英語教育研究グループ、道徳教育研究グループ、乳幼児教育研究グループ、表現教育研究グループ、教育課題研究グループが立ち上げられています。建学理念研究部門では、トルストイ教育研究グループ、私学教育研究グループが立ち上げられています。

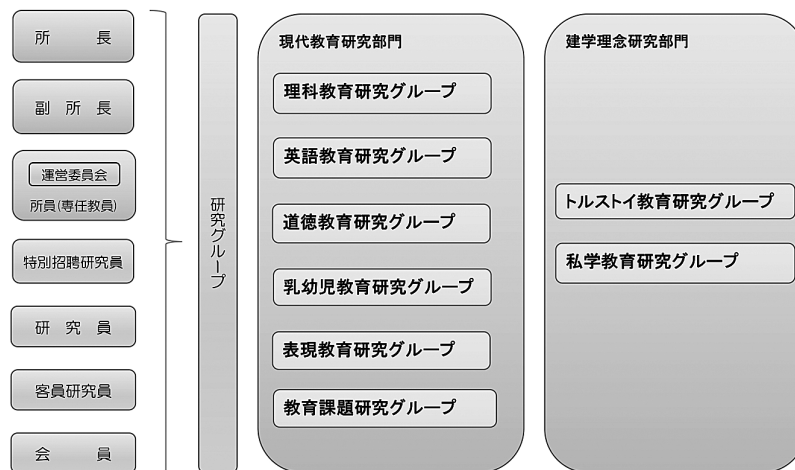


図2 構成員及び研究組織

### 〔現代教育研究部門〕

#### (理科教育研究グループ)

児童の知的な好奇心を育て、科学的な見方や考え方を養う小学校の理科授業改善の方策にかかわる研究活動を進めていきます。具体的には、

- ①小学校理科のカリキュラム開発研究
- ②理科教材にかかわるコンテンツ開発研究
- ③子どもの科学を創造する理科授業の展開の研究

などです。

これらの研究活動を集約し、関連学会にて発表し研究成果の蓄積と伝播を図ります。

(グループ代表者 小川哲男)

#### (英語教育研究グループ)

小・中・高・大学を通して、グローバル化時代の日本の英語教育に関する情報を広く集め、グループ研究、個人

研究のピアサポート、並びに書籍の出版、セミナー開催を行います。

本年は6月27日(土)に「動機付けを高める英語教育—理論と実践例」と題して、ニュージーランドのオークランド大学 R. Ellis 教授、一般社団法人アジア教育交流研究機構代表理事の東京経済大学 関昭典准教授によるセミナーを開催します。(グループ代表者 金子朝子)

#### (道徳教育研究グループ)

道徳教育は教育の根幹を担います。道徳教育の充実には日本のみならず世界の教育の課題です。本研究グループでは、視野を常に世界に向けながら日本の道徳教育の独自性や歴史の変遷などをしっかりと踏まえてこれからの道徳教育のあり方について本質的、実践的研究を行い、全国に発信していくことを目指します。

今年度は、「特別の教科道徳」を要とする道徳教育改善について理論的研究を深めること。世界の道徳教育の動向について、中国、韓国、アメリカ、フィンランド、モンゴルなどの研究者や学校と交流を図ること。そして、学校現場における道徳教育の充実に関して具体的研究と提案を行う予定です。(グループ代表者 押谷由夫)

#### (乳幼児教育研究グループ)

今、教育の世界も「多様化の時代」の波のなかにはいるのではないかと思います。教師の役割の多様化、保護者のニーズの多様化、気になる子どもの多様化、価値観の多様化などです。

一方、乳幼児公教育施設も「こども園」の時代に向けて急速な振興のなかにあります。待機児童問題をどう解決するのか。教育の方法の新たな形態のなかで、「保育の質」はどう担保されるのか。こうした多様化の時代とこども園化のなかで、教育の基礎に当たる乳幼児教育のあり方、存在感も一層問われることとなります。こうした問題に正面から取り組んでいきます。(グループ代表者 横山文樹)

#### (表現教育研究グループ)

表現教育グループは、音楽、美術、身体表現、メディア表現など、様々な表現教育の可能性を追究するとともに、個々の表現領域を横断する新しい教育の理念やメソッドを見出すことを目的としています。その出発点として、初年度は、まず都内を中心にアート教育の拠点となっている施設の活動を調査し、情報収集のためのネットワーク構築を目指します。(グループ代表者 永岡都)

#### (教育課題研究グループ)

教育課題研究グループは、様々な専門分野の所員や研究員が参加しています。

いじめ、不登校等の生徒指導上の課題や、特別な支援が必要な子どもへの教育、道徳の新たな教育の枠組みなど、教育を取り巻く課題も様々です。したがって提言やアイデアを寄せ合い、21世紀型の学力観などの視点から俯瞰しながら、じっくりと具体的な課題設定をしていきたいと考えています。

学校の先生方との協働も大切にして、現場の役に立つ研究をしていきます。(グループ代表者 岸田幸弘)

#### [建学理念研究部門]

#### (トルストイ教育研究グループ)

毎月、トルストイ勉強会を開催し、レフ＝トルストイが子ども向けに書いた初等教科書である『アズブカ』を輪読し、トルストイ教育をはじめ教育全般について語り合っています。現在参加者は10名ほどですが、有志の参加を歓迎しています。開催日時・場所につきましては、現代教育研究所ホームページをご覧ください。

また、本学のトルストイ関係の所蔵品の整理と目録整備を今後順次行っていきます。

(グループ代表者 鈴木円)

#### (私学教育研究グループ)

本学の建学の精神を含めて私学教育のあり方を考えていきます。

- ① 私学がこれまでどのような役割を果たしてきたのか
- ② これから何をすべきなのか
- ③ 公教育のなかで私学をどう位置づけていくべきか

について原理的かつ実践的に考察していきます。

(グループ代表者 友野清文)

### 具体的取り組みと今後の課題

シンポジウムの開催、メルマガ、Newsletter の発行、研究グループ主催研究会、トルストイ読書会を計画し

ています。

今後の課題としては様々なことを挙げることはできますが、特に次の点について重点的に取り組んでいきたいと思えます。

- ・今日的教育課題について、自由な研究・交流
- ・研究の領域は、教育全般に及ぶが、幼児教育機関、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校を中心に、家庭や地域における教育も含めた幅広い研究活動
- ・研究交流は、同じ興味関心をもつ身近な研究仲間はもちろんのこと、志を同じくする全国の研究・実践者、行政官、企業人等とも交流を深める。また、国内外の教育研究機関や大学等との交流の促進
- ・研究・交流の拠点として機能するようにスペースを確保し資料等を充実させるとともに、教育課題に関する情報ターミナル基地としての機能も果たす
- ・Think global, Act local の精神で学校現場や教育実践及びこれからの教育政策に役立つ研究の推進
- ・門戸の開かれた組織のなかで学生も積極的にかかわる

### 資料1 現代教育研究所開設記念フォーラムについて

研究所の開所を記念するフォーラムが平成27年2月28日(土)に本学のオーロラホールで開催されました。テーマは「次期学習指導要領改訂の理念と課題 ―教育課題への大学・教育機関との連携―」で、研究所の果たすべき役割を考えると同時に、2020年実施が予定されている次期学習指導要領について展望するものとなりました。予想を大きく上回る約140名の方に来場して頂き、成功裡に終えることができました。

主な内容は以下の通りです。

#### ① シンポジウム1「教育課題への対応と大学・教育機関の役割」

シンポジスト

- 高岡信也(独立行政法人教員研修センター理事長)
- 高野敬三(東京都教職員研修センター所長)
- 森山賢一(玉川大学教職大学院教授 教師教育リサーチセンター長)
- 小川哲男(昭和女子大学大学院教授)

司会・コーディネーター

- 友野清文(昭和女子大学教授、現代教育研究所副所長)

#### ② 記念講演「21世紀を生き抜く子どもたちを育てる教育のあり方を求めて」

これまで教育行政の中枢におられた銭谷眞美氏(東京国立博物館長 前文部科学事務次官)から、学習指導要領の変遷と今後の課題についてお話し頂きました。



写真2 銭谷眞美氏の記念講演

#### ③ シンポジウム2「次期学習指導要領改訂の課題と展望」

シンポジスト

- 市川伸一(東京大学大学院教授 中教審教育課程部会副部会長)
- 角屋重樹(日本体育大学教授 前国立教育政策研究所研究部部長)
- 貝ノ瀬滋(前三鷹市教育委員会委員長 教育再生実行会議委員)

柏原聖子（世田谷区立中里小学校校長）  
司会・コーディネーター  
押谷由夫（昭和女子大学教授，現代教育研究所所長）

その後，記念パーティー（懇親会）が開かれ，50名以上の参加のもと，シンポジストや研究所所員，研究員，自由参加者等が交流のひとつときを持ちました。

## 資料2 新たな夜が明けようとしている

新たな夜が明けようとしている  
昭和の教育の夜が  
脈々と受け継がれた昭和の灯火が  
いままた，教育の光りによって燃え上がろうとしている  
積み上げられてきた人見イブムの石積みを  
さらに高く積み上げんと志し  
我らは誓う  
昭和の教育のメッカたらんと

新たな夜が明けようとしている  
昭和の教育の夜が  
我が国の優れた教育文化の灯火が  
強風にさらされ揺れ動くとき  
世の光りとなりつつ  
一本の磐石の柱を建てんと志し  
我らは挑む  
日本の教育のメッカたらんと

新たな夜が明けようとしている  
昭和の教育の夜が  
子どもたちの幸せと平和な社会を築かんと  
昭和に集いし夢追い人  
視野を世界に広げつつ  
理想の教育研究の場を志し  
我らは夢見る  
世界の教育のメッカたらんと

※この詩は，4年制の初等教育学科が設置された平成18年に，私たちの心意気を示すために作ったものです。この理念のもとに，さらに大学院，教育研究所の設立へと夢を馳せていました。2年後の平成20年に大学院人間教育学専攻が設置され，そして昨年現代教育研究所が立ち上げられました。改めて，私たちの心意気を確認したいと思い掲載する次第です。